

風 害

4月

野菜

1 事前対策

- 1) アスパラガス、ミニトマト、イチゴ等の施設野菜のハウスはビニールを下げ、ハウスバンドの締め直し(特に、妻面近くのバンド)等により補強する。
- 2) バンドレスのビニルハウスにおいても展張用補助バンドを用い、バタツキ防止と補強を行う。
- 3) トンネルの場合も強風でビニールが飛ばされないようにバタツキ防止と補強を行う。
- 4) 出荷できるもの(Sサイズ規格も)は、できるだけ収穫し、強風後のキズによる下級品、出荷不適物等の減少に努める。
- 5) 強風で飛ばされるものがないか、ほ場内の溝、ほ場周りの排水溝等を点検し、整備等を行う。

2 強風・降雨等の対策

- 1) 露地野菜は草勢回復のために、葉面散布剤を散布する。茎葉の傷口から病害が発生しやすいので早期に殺菌剤を用いて防除する。降雨後は、葉茎が軟らかく、薬害が発生しやすいので、基準内の薄い濃度(例:2,000~3,000倍の場合、3,000倍)で散布する等、注意して薬剤散布を行う。
- 2) ブロッコリーが強風等で倒伏した場合、倒伏直後は無理に起さず草勢の回復に努める。極端に倒伏し、そのまま生育した場合、茎の曲がりや花蕾の変形等が発生する。しかし、倒伏を直すことで草勢が弱ったり、傷口から病害が発生しやすいので、倒伏を直す場合は、草勢回復後、株を傷めないよう注意して行う。少しの倒伏は、無理に直さないほうが良い。
- 3) 施設野菜(アスパラガス、ミニトマト、イチゴ等)は、急激な根の水分変化に野菜が対応できないため、降雨後の晴天により極端に萎れる場合がある。このため降雨後、晴天になるようであれば、速やかに施設内の温度が高温にならないようサイドや谷を開放し(風がある場合は風上は少し、風下は全開)、適正なかん水、遮光ネットの被覆等を行う。施設開放が遅れ、ハウス内が高温になっている場合は、一度に開放しない。この状態で開放すると急激な蒸散のため、成長点や葉から急激な蒸散がおこり焼けやすくなる。このような障害の回避対策として、ハウス内湿度を上げるためかん水を行ったり、動噴等で水を噴霧した後、風下サイドから徐々に開放する。
- 3) 溝に水が長時間たまると根腐れが発生しやすくなるので、できるだけ早く溝にたまった水を排水する。

果 樹・オリーブ

- 1 倒伏した樹や苗木は、速やかに立て直して支柱を行い、根際に土を入れて固める。
また、被害の状況に応じて枝葉を剪定する。
- 2 折れた枝は健全な部分まで切り直し、切り口に保護剤を塗布する。落葉の激しい場合や枝の切断によって主枝など枝幹部に直射日光が長時間あたる場合は、日焼け防止の白塗剤を塗布する。
- 3 ビニールが破損したトンネルやハウスは、雨が入らないように補修する。
- 4 強風に対する事前対策として、棚や棒数ネット、ハウスの点検・補強を行う。

花 き

- 1 事前対策
 - 1) ハウス等はビニールを下げ、ハウスバンドの締め直し(特に、妻面近くのバンド)等により補強する。
 - 2) バンドレスのビニルハウスにおいても展張用補助バンドを用い、バタツキ防止と補強を行う。
 - 3) 強風で飛ばされるものがないか、施設周りの排水溝等を点検し、整備等を行う。
- 2 事後対策

風がおさまったら、できるだけ早く倒れた茎を起こして茎曲がりを防ぐとともに、殺菌剤を散布して病気の発生を防止する。